

## 酪農科学シンポジウム 2023 開催報告と御礼

酪農科学シンポジウム 2023 は 2023 (令和 5) 年 9 月 1 日 (金)、福島県福島市のコラッセふくしまにおいて、ハイブリッド形式にて福島大学食農学類教授の西村順子先生を大会実行委員長として開催されました。今年も無事にシンポジウムを開催することができましたこと、西村先生並びに大会実行委員会の方々に御礼申し上げます。

今回のシンポジウムには一般会員、学生、ゲスト、非会員含めて 97 名超の対面参加と 21 名超のリモート参加があり、口頭発表並びにポスター発表のほか、学会賞授賞式・情報交換会・若手研究者の交流会等々が盛況下に終了いたしましたことをまず、ご報告申し上げます。

今年は、「これからの食卓と酪農製品 ~Farm to Table の再考~」をテーマに掲げ、これらの講演を拝聴することができました。講演者の諸先生方には厚く御礼申し上げます。発表内容といたしましては、基調講演 1 題、招待講演 6 題の発表が行われ、どのご講演でも活発な討論が持たれました。

基調講演は「酪農で社会科学を考える」(東京大学名誉教授・生源寺眞一先生)から行われ、日本の酪農業の特徴と酪農生産のコストを分解して海外と比較するという自然科学にも共通するような興味深いお話をいただきました。招待講演は「乳脂肪におけるラクトン光学異性体の分布」(福島大学 食農学類・吉永和明先生)、「Cultures with Protective Effect in Cheese Making」(Sacco Srl・Angelo Suarez 氏)、「プロバイオティクスがストレス反応および睡眠の質に及ぼす作用」(株式会社ヤクルト本社 中央研究所・松田一乗氏)、「乳の新たな価値提供 ~乳製品のみを使用したミルクアイスの開発~」(株式会社明治 グローバルフードソリューション事業本部・岩井麻衣氏)、「機能性素材を配合した宅配乳製品の摂取の有無と要介護リスク・認知症リスク」(森永乳業株式会社 基礎研究所・和田泰明氏)、「食品の機能研究におけるモデル生物の利用について」(雪印メグミルク株式会社 ミルクサイエンス研究所・小林俊二郎氏)の各講演が行われました。

一昨年度までのコロナ禍ではリモート形式のため実施できなかったポスターセッション(25 題)も昨年度同様に行われ、昨年度と同様に活発な議論が展開されました。若手優秀ポスター賞は、東京農業大学大学院の安藤浩貴氏ら(脱脂粉乳から調製されたチーズカード性状に対する濃縮及び噴霧乾燥の影響)と信州大学バイオメディカル研究所の野村奈津実氏ら(免疫チェックポイント阻害乳酸菌の経鼻投与による原発性肺ガンの抑制効果)が選出されました。

シンポジウムの最後に、2023 年度日本酪農科学会賞、帯広畜産大学・福田健二会員の授賞式が行われ、受賞者挨拶をいただきました。残念ながら学会奨励賞は応募がありませんでしたが、来年度も引き続き、当学会の顕彰事業への積極的なご推薦をいただきたいと思います。

また、今回は、熊本で開催された酪農科学シンポジウム 2019 以来の情報交換会、若手研究者の会も開催され、講演会場でのディスカッションをより深化させることができました。

酪農科学シンポジウム 2024 は 2024(令和 6)年 9 月 6 日(金曜日)、東京聖栄大学の谷本守正教授を大会委員長として、東京聖栄大学(東京都葛飾区)において開催する予定です。

なお、以下の各企業・団体よりご協賛をいただきましたことにより、このシンポジウムはおかげさまで成功裏に終了いたしました。学会を代表し、深く感謝申し上げます。

アサヒグループ食品株式会社

岩井機械工業株式会社

一般社団法人家畜改良事業団

小岩井乳業株式会社

合同酒精株式会社

一般社団法人Jミルク

四国乳業株式会社

タカナシ乳業株式会社

公益社団法人畜産技術協会

一般社団法人中央酪農会議

トモエ乳業株式会社

株式会社野澤組

フォス・ジャパン株式会社

富士平工業株式会社

北海道乳業株式会社

公益社団法人北海道酪農検定検査協会

南日本酪農協同株式会社

株式会社明治

森永乳業株式会社

株式会社ヤクルト本社

雪印メグミルク株式会社

よつ葉乳業株式会社

最後に、今回のシンポジウムを実施していただきました西村順子先生および福島大学よりご支援をいただきました先生方および院生・学生の皆様に、重ねて心より厚く御礼申し上げます。

日本酪農科学会 会長 中島 肇